

平成30年1月10日号 (第181回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

あけましておめでとうございます。

「阿伎留通信」は本年も皆さまの健康に役立つ情報や、病院についての情報を発信していきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。



今回の阿伎留通信は、

— 「医事課 診療情報管理係のご紹介」 —

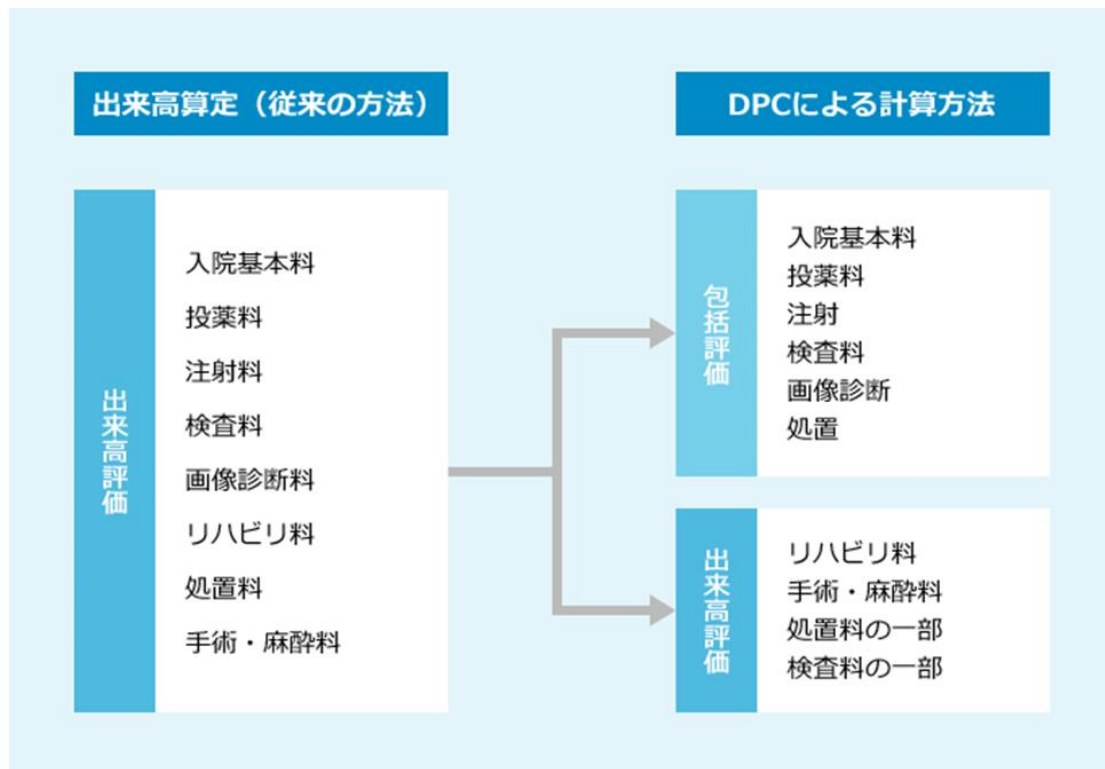
をテーマに医事課の小林 幸久 係長よりお話しさせていただきます。

・診療情報管理係のご紹介

当係は通称「病歴管理係」とも呼ばれる、入院患者さんの病歴情報を管理する部署です。医事課医事係(案内・健診受付等)や地域医療連携センターが表の顔とすれば、裏で支える縁の下の力持ち的役割を果たしています。患者さんには直接接する機会の少ない部署です。

当院では、DPC包括支払制度を導入しています。従来の出来高払い方式では入院料、投薬料、手術料など、各診療行為の点数の足し算で診療報酬が決まっていた。一方、DPCでは入院期間中に治療した病気の中で「最も医療資源を投入した一疾患」に対する定額点数が決まっており、この定額点数によって報酬が決まります。

DPCが導入された病院では、同じ疾患であれば、より効率的な治療を行った方が高い収益を上げられます。このことは患者さんにとっても治療期間の短縮や、過剰な検査や投薬の削減が見込めるというメリットがあります。またこのような診療が推進されれば医療費削減につながることから、厚生労働省もDPCの導入を推進しています。



(図：出来高算定とDPCによる計算方法)

当係では、医師のカルテ情報と入院担当者の医事会計情報を照合させ、「最も医療資源を投入した一疾患」が適当であるか否かについて、4,000以上ある分類から1つを決定していく業務(最終的には医師により確定)を中心に行っています。これは、DPC対象患者さん全員に対して行うので、1日20人退院患者さんがいれば20回行うこととなります。誤ったコード選択や退院時に会計をお待たせすることの無いように、慎重且つ迅速を目標としています。

また全国の病院で必須となった「全国がん登録」についても、当係が中心となって業務にあたっています。全国がん登録とは、日本でがんと診断されたすべての人のデータを国で1つにまとめて集計・分析・管理し、がん治療やがん対策に役立てる仕組みです。(詳しくは「がん情報サービス」まで https://ganjoho.jp/reg_stat/can_reg/national/public/about.html)



患者さんと普段接する機会の少ない私たちですが、今後とも、質の高く信憑性のある病歴管理を目指し、他部署とも協力体制を図りながら努力を重ねていきたいと思っております。

阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)